

河川工作物アドバイザー会議の経過報告・課題

□ 令和6年度（2024年度）河川工作物アドバイザー会議の開催状況

第2回会議（令和7年1月28日（火）13:30～17:10 かでる 2.7）

・主な議事内容

1 世界遺産委員会決議の対応について（報告）

第45回世界遺産委員会決議に係る対応に関わり、「保全状況報告」の内容について確認。

2 気候変動に係る順応的管理戦略について（報告）

気候変動に係る順応的管理戦略について報告。

3 長期モニタリングについて（報告）

（1）令和6年度等長期モニタリング調査結果について（オショロコマ等）

（2）令和6年度長期モニタリング結果について（サケ類稚魚降下数）

長期モニタリング計画に基づき、今年度の調査結果について報告。

4 河川工作物の計画・検討について

（1）ルシャ川治山ダムの改良について

令和6年度で終了した工事の実施状況や令和7年度以降実施予定のモニタリング調査について報告。

（2）オッカバケ川治山ダムの改良について

2号ダムから1号ダム周辺の河川の状況変化や2号ダムの切下げ後の河川の流量変化について報告し、2号ダムの落差解消の切下げ工法の提案を行った。

（3）イワウベツ川治山ダムの改良について

7号ダムの切下げ後の現状や3号ダムのスリット改良状況を報告。サケ類の遡上調査・産卵床調査結果や漁業関係者（孵化場ほか）からの聞き取りについて報告。

（4）ルシャ川河床路の状況について

河床路の現在の状況（越流等）や物理環境等のモニタリング調査結果について報告。漁業関係者等から利用状況の聞き取りについて報告。

5 その他

（1）羅臼川におけるモニタリング調査及び改良について

サケ類の産卵床調査等の結果報告や5号床止工の改良計画について提案を行った。

（2）サシルイ川治山ダムの改良について・効果検証（モニタリング）

令和4年から現在までの状況報告、令和6年度に実施した小規模魚道改良について、放水路を切り欠き、石組みの追加による魚道改良を報告。

（3）知床公園羅臼線朔北橋の橋梁補修について（オッカバケ川）

朔北橋補修について、現在（1月24日時点）の補修工事の状況について報告。

（4）しれとこ100平方メートル運動のイワウベツ川における取り組みについて

イワウベツ川におけるサクラマスの復元に向けた取り組み状況、サケ科魚類の生息状況調査結果について報告。

(5) ルサ川における河川改修について

令和6年1月から令和7年2月まで計2回の改修工事を実施した状況を報告。

(6) 知床地区における携帯電話基地局整備に関する経過について

知床岬地区における携帯電話基地局整備に関する経過（概要）を報告。

■ 河川工作物アドバイザー会議からの検討課題

① イワウベツ川の河川工作物の改良（サケ類の遡上の関係）

- ・イワウベツ川の本流、支流（赤イ川、ピリカベツ川）へ、サケ科魚類の遡上を目的に、河川工作物の改良を行ってきており、2026年に完了予定。

（※現在は、サケ科魚類の河川遡上数が少ない状況）

- ・岩尾別ふ化場及び北見管内さけ・ます増殖事業協会との打合せをした中、先方から、
ア）以前2日程シーズン中に仕切りを取り外したが、河川にヒグマが出没し、カメラマン（観光客）が道路周辺に駐車し、バルブのあるマンホール等の開閉に支障があった

イ）サケを遡上させることによって、河川にヒグマがつくことによる諸問題（クマ渋滞等）を解決できるなら遡上させることに問題がない

等々の意見があったことに対し、複数のAP委員から「サケ類の遡上」に関し提言があり、河川APとして喫緊の課題との認識。

- サケ類を遡上させることによる、イワウベツ川周辺での諸課題（クマ問題や観光客等の利用状況）の解決に向け、科学委員会への現状報告及び管理対策（規制等）について、ヒグマWG、エコツーWGにも課題意識を共有し、科学委員会で解決の方策を探る、ことが河川工作物AP会議の中で合意された。

② 魚類の各種モニタリング調査結果により、近年（特に6年度）、カラフトマスの河川遡上数が激減している状況。

※モニタリング計画の評価基準：各河川にサケ類が遡上し、持続的に再生産していること

- ・河川工作物APでの喫緊の課題として、これらの原因を分析していく必要と認識

ア）気候変動を原因とする影響（世界的海域の状況変化）

イ）人為的な影響（海域沿岸部での漁業等）

ウ）河口部付近の遊漁

エ）魚類相の状況変化（オショロコマ・アメマスの競合等）

- 原因分析等を行い、河川工作物AP・事務局（※委員からの発信）により、関係機関（環境省、北海道、町、漁業関係者等）間での意見・情報共有の場をどのように設定するか、こういった形及び開催主体の検討などを行い、現状の情報発信を含め、河川APとして対応策の検討が必要との認識を得た。